

III 調査結果

1 環境保全について

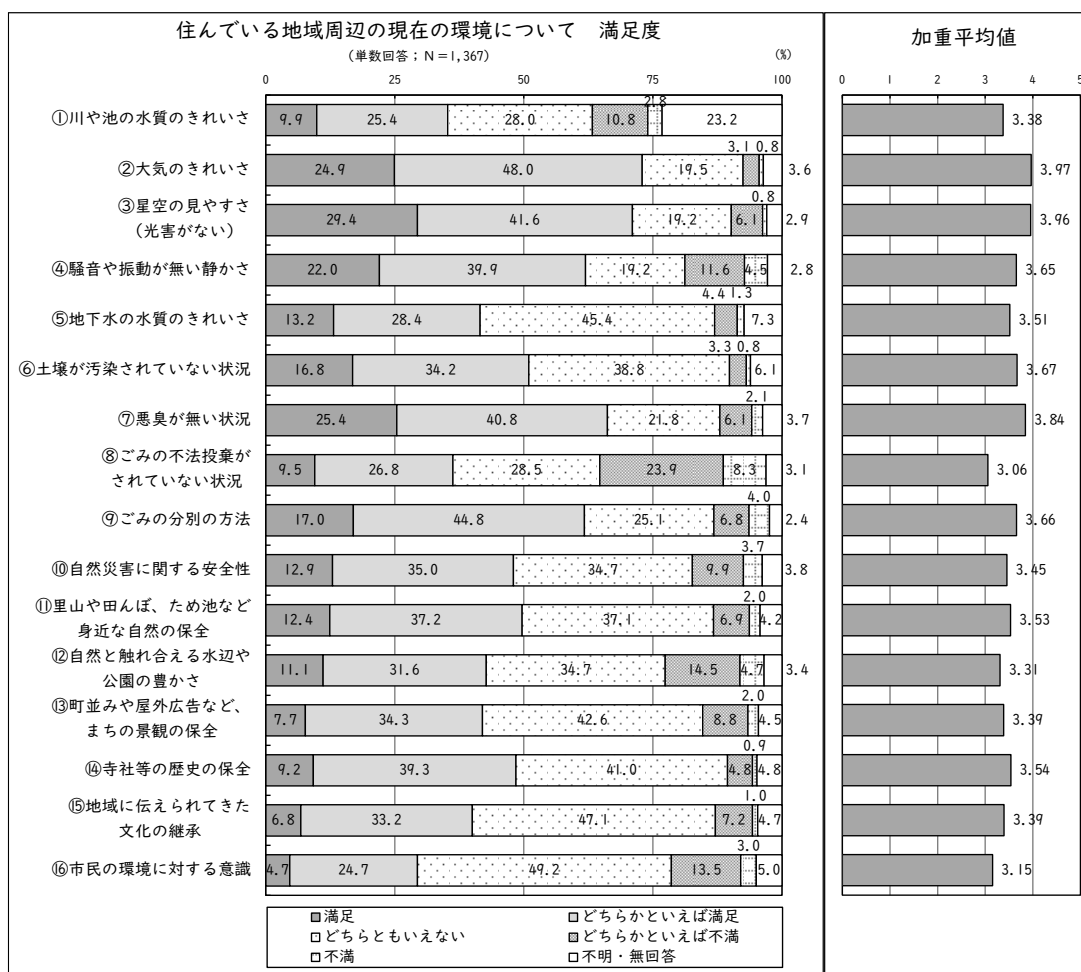
(1) 住んでいる地域周辺の現在の環境について

《問 7》 あなたが住んでいる地域周辺の現在の環境について、あなたの「満足度」と「重要度」についておたずねします。それぞれの項目について、あなたの満足度合い、重要度合いに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

① 満足度

住んでいる地域周辺の現在の環境について、「満足」の割合が最も多いのは「星空の見やすさ(光害がない)」で29.4%、以下、「悪臭が無い状況」が25.4%、「大気きれいな」が24.9%と続いている。「不満」の割合が最も多いのは、「ごみの不法投棄がされていない状況」で 8.3%、以下、「自然と触れ合える水辺や公園の豊かさ」が4.7%、「騒音や振動がない静けさ」が4.5%と続いている。

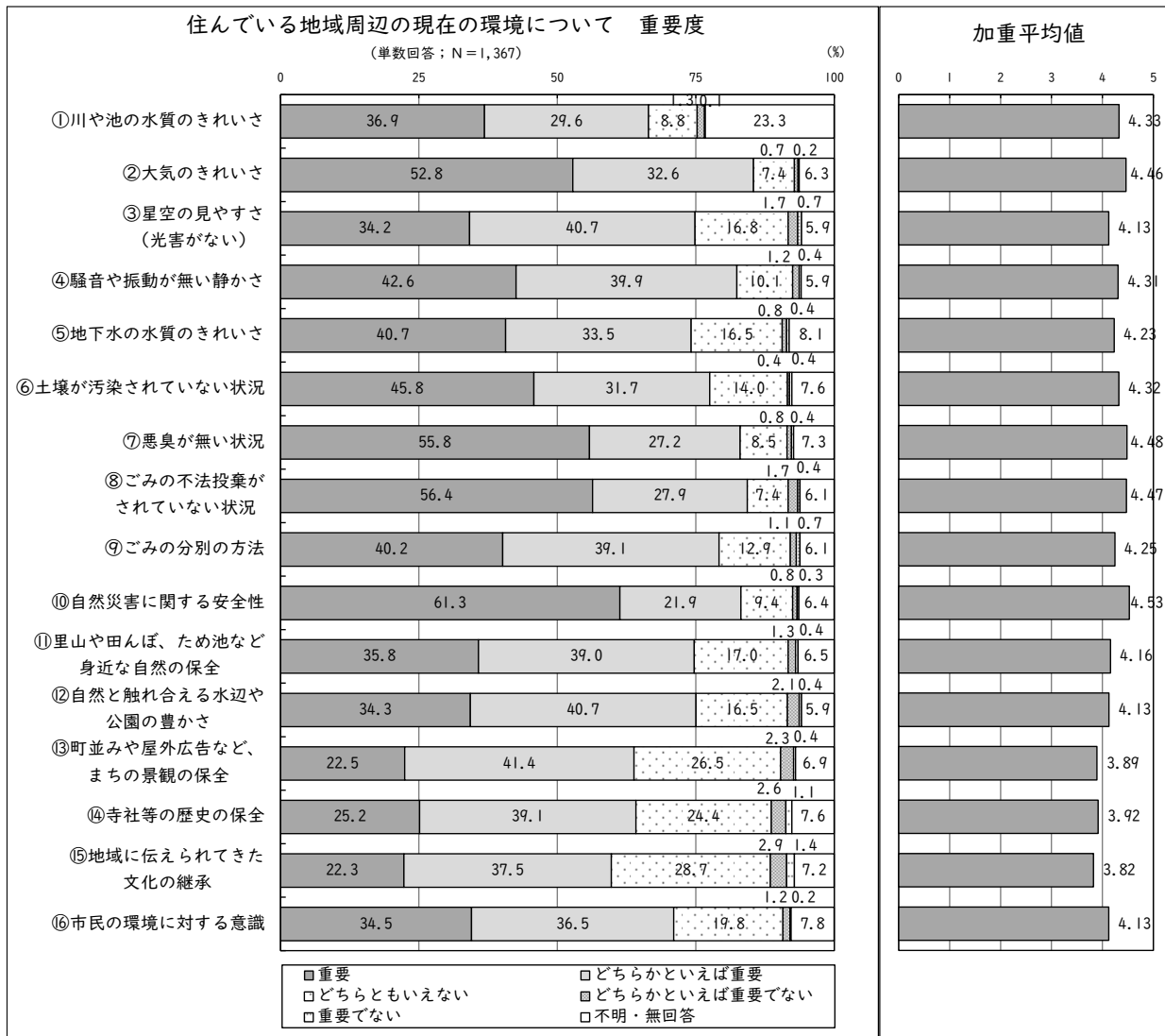
「満足」を5点、「どちらかといえば満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえば不満」を2点、「不満」を1点とした場合の加重平均値をみると、最も高いのは「大気きれいな」で3.97点、以下、「星空の見やすさ(光害がない)」が3.96点、「悪臭が無い状況」が3.84点と続いている。最も低いのは「ごみの不法投棄がされていない状況」で3.06点、以下、「市民の環境に対する意識」が3.15点、「自然と触れ合える水辺や公園の豊かさ」が3.31点と続いている。



② 重要度

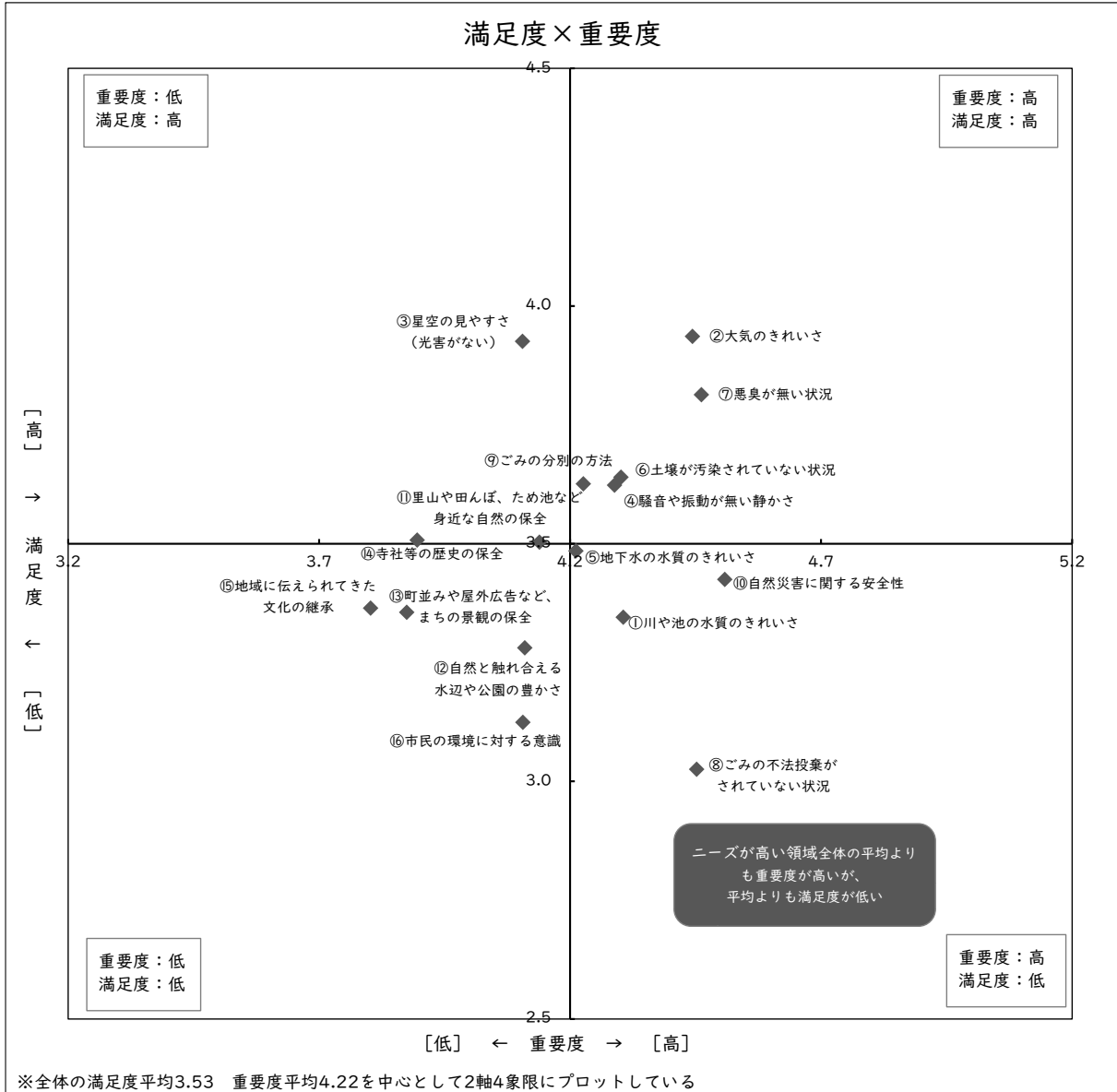
住んでいる地域周辺の現在の環境について、「重要」の割合が最も多いのは「自然災害に関する安全性」で 61.3%、以下、「ごみの不法投棄がされていない状況」が 56.4%、「悪臭が無い状況」が 55.8%と続いている。

「重要」を 5 点、「どちらかといえば重要」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「どちらかといえば重要でない」を 2 点、「重要でない」を 1 点とした場合の加重平均値をみると、最も高いのは「自然災害に関する安全性」で 4.53 点、以下、「悪臭が無い状況」が 4.48 点、「ごみの不法投棄がされていない状況」が 4.47 点と続いている。



③ 満足度と重要度の関係

満足度を縦軸、重要度を横軸とし、全項目の加重平均値の平均を原点とした 2 次元上にそれぞれを配置した場合、「川や池の水質のきれいさ」「地下水の水質のきれいさ」「ごみの不法投棄がされていない状況」「自然災害に関する安全性」の 4 項目は、縦軸より右、横軸より下に位置している。これらは、全体の平均より重要度は高いが、低い満足度しか得られていない「ニーズの高い領域」と見なせる。

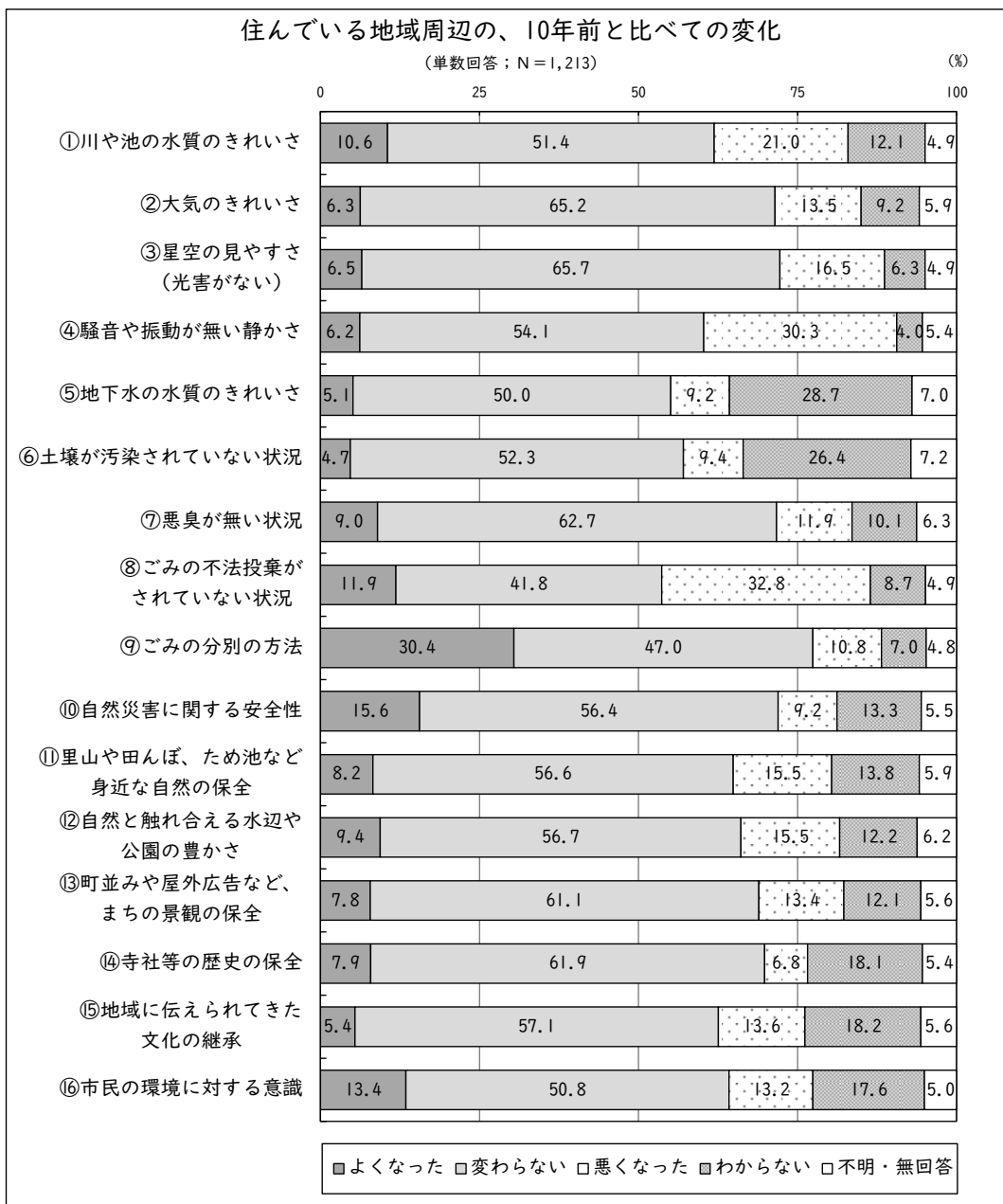


(2) 住んでいる地域周辺の、10年前と比べての変化

「問 8」 現在の住所に10年以上お住まいの方におたずねします。
 あなたの住む地域周辺の状況は、10年前と比べてどう変わりましたか。各項目について、あなたのお考えに近い番号に○をそれぞれ1つつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

住んでいる地域周辺の、10年前と比べての変化について、「よくなった」の割合をみると、最も多いのは「ごみの分別の方法」で30.4%、以下、「自然災害に関する安全性」が15.6%、「市民の環境に対する意識」が13.4%と続いている。

「悪くなった」の割合をみると、最も多いのは「ごみの不法投棄がされていない状況」で32.8%、以下、「騒音や振動が無い静かさ」が30.3%、「川や池の水質のきれいさ」が21.0%と続いている。



(3) 環境保全推進のために、甲賀市が取り組むべき施策

◀問 9▶ あなたは、環境保全を推進するために、今後甲賀市はどのような施策に取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

環境保全推進のために、甲賀市が取り組むべき施策は、「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が 52.2%で最も多くなっており、以下、「ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進」が 45.9%、「リサイクル活動や環境美化などの市民活動の支援」が 42.9%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が最も多くなっている。また、男性は「環境を守るための規制や罰則の強化」「次世代型自動車(ハイブリッド車、電気自動車など)の導入促進」「環境に関する情報提供の充実」が女性よりも多くなっている。

年代別にみると、30 歳代では「学校における環境教育の充実や市民への環境学習の充実」が、他の年代では「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が最も多くなっている。また、40 歳代以下では「リサイクル活動や環境美化などの市民活動の支援」「ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進」「公共交通機関の利用促進」が他の年代よりも少なく、60 歳代以上では「リサイクル活動や環境美化などの市民活動の支援」が他の年代よりも多く、70 歳以上では「ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進」「公共交通機関の利用促進」が他の年代よりも多くなっている。

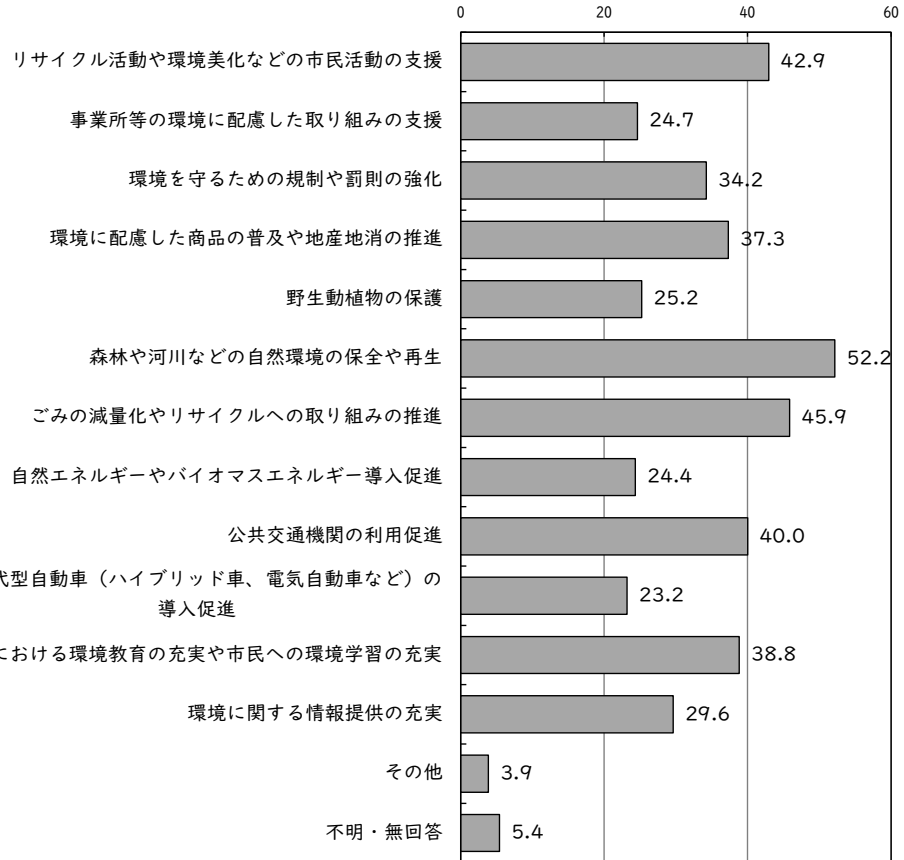
居住地域別にみると、すべての居住地域で「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が最も多くなっている。また、土山地域では「自然エネルギーやバイオマスエネルギー導入促進」「公共交通機関の利用促進」「次世代型自動車(ハイブリッド車、電気自動車など)の導入促進」「学校における環境教育の充実や市民への環境学習の充実」が他の地域よりも少なく、甲賀地域では「ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進」が他の地域よりも多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴で「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が最も多くなっている。また、10 年未満では他の居住歴よりも「野生動植物の保護」「森林や河川などの自然環境の保全や再生」が多く、「リサイクル活動や環境美化などの市民活動の支援」「事業所等の環境に配慮した取り組みの支援」「環境を守るための規制や罰則の強化」「ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進」「自然エネルギーやバイオマスエネルギー導入促進」「公共交通機関の利用促進」が少なくなっている。

環境保全推進のために、甲賀市が取り組むべき施策

(複数回答；N=1,367)

(%)



	リサイクル活動や環境美化などの市民活動の支援	事業所等の環境に配慮した取り組みの支援	環境を守るための規制や罰則の強化	環境に配慮した商品の普及や地産地消の推進	野生動植物の保護	森林や河川などの自然環境の保全や再生	ごみの減量化やリサイクルへの取り組みの推進	自然エネルギーやバイオマスエネルギー導入促進	公共交通機関の利用促進	次世代型自動車（ハイブリッド車、電気自動車など）の導入促進	学校における環境教育の充実や市民への環境学習の充実	環境に関する情報提供の充実	その他	不明・無回答
全体 (N=1,367)	42.9	24.7	34.2	37.3	25.2	52.2	45.9	24.4	40.0	23.2	38.8	29.6	3.9	5.4
男 (N=600)	45.2	25.8	37.7	35.7	22.8	54.8	44.0	26.2	40.0	28.0	40.5	32.5	5.5	3.5
女 (N=725)	41.5	23.7	31.2	39.4	26.6	50.1	47.7	22.3	40.1	20.0	37.8	26.9	2.3	6.5
20歳以下 (N=129)	34.9	23.3	24.0	34.9	34.9	48.8	39.5	23.3	37.2	27.1	41.1	25.6	3.1	5.4
30歳代 (N=135)	32.6	22.2	29.6	30.4	23.0	48.1	33.3	23.7	31.1	23.7	49.6	23.7	3.7	5.9
40歳代 (N=172)	32.6	28.5	34.3	38.4	23.3	53.5	36.6	25.6	32.0	18.6	36.0	25.6	3.5	2.3
50歳代 (N=199)	42.2	27.6	33.7	41.2	30.7	50.8	50.3	25.6	35.2	26.1	38.7	34.7	5.0	2.5
60歳代 (N=303)	48.5	25.4	30.4	37.0	19.8	54.1	47.5	24.8	37.0	24.1	37.0	26.4	4.0	4.6
70歳以上 (N=424)	49.5	22.6	42.0	38.7	25.0	53.1	51.7	23.6	51.7	21.9	37.5	34.4	3.8	8.5
水口地域 (N=550)	38.4	26.4	34.4	38.7	23.6	50.7	43.5	24.9	41.3	23.3	41.3	29.8	3.8	4.5
土山地域 (N=111)	44.1	20.7	33.3	35.1	25.2	51.4	47.7	18.0	34.2	16.2	28.8	27.9	6.3	7.2
甲賀地域 (N=197)	45.2	20.8	31.0	35.0	26.4	54.3	51.3	21.8	39.6	22.8	40.1	32.0	3.0	7.6
甲南地域 (N=311)	46.0	23.8	35.4	37.9	25.4	52.4	46.3	28.0	42.1	27.3	39.2	28.9	3.2	4.2
信楽地域 (N=196)	48.5	27.6	36.2	36.2	28.1	54.1	45.4	23.0	37.2	20.9	36.2	29.1	4.6	6.1
3年未満 (N=44)	36.4	11.4	25.0	47.7	27.3	59.1	34.1	13.6	29.5	11.4	36.4	38.6	9.1	2.3
3年～10年未満 (N=95)	30.5	22.1	27.4	27.4	31.6	53.7	35.8	24.2	24.2	28.4	41.1	24.2	4.2	6.3
10年以上 (N=1,213)	44.3	25.4	34.9	37.9	24.6	51.9	47.1	24.9	41.6	23.4	39.0	29.8	3.6	5.4

(4) 「生ごみ堆肥循環化システム」の認知状況

「問 10」 あなたは、「生ごみ堆肥循環化システム」という取り組みをご存知ですか。(〇は1つだけ)

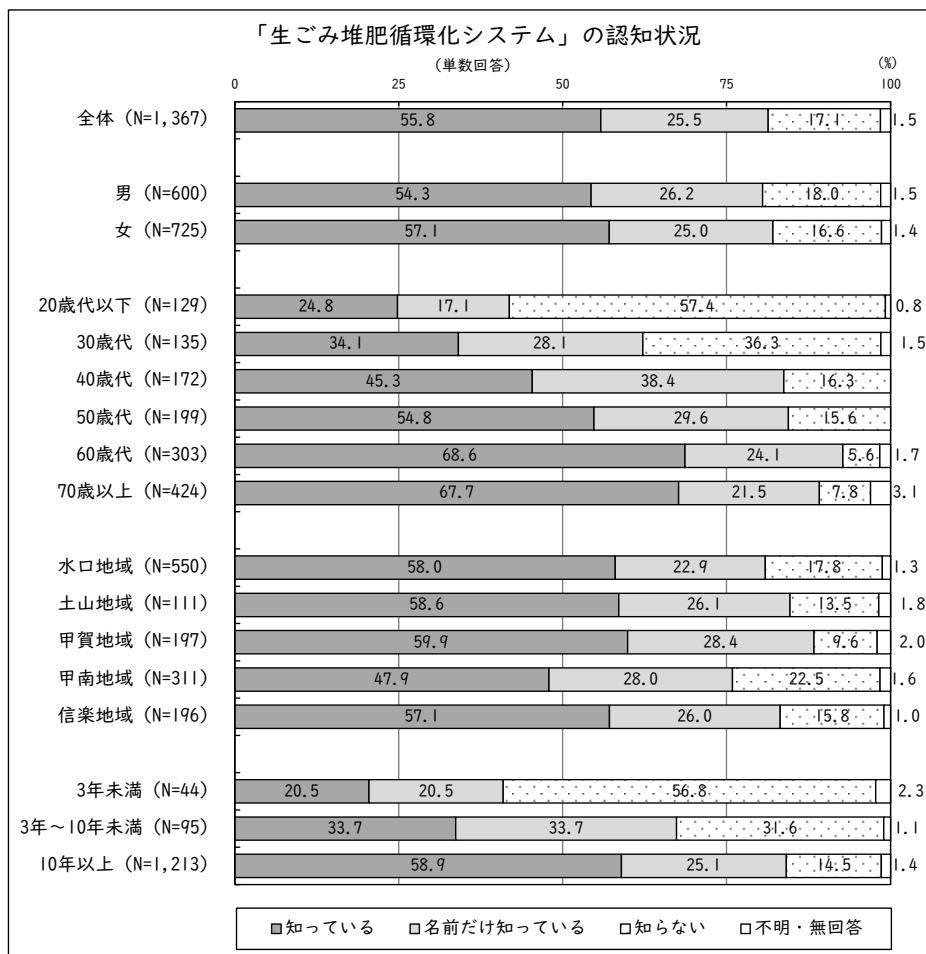
「生ごみ堆肥循環化システム」の認知状況について、「知っている」が55.8%で最も多くなっており、「知っている」と「名前だけ知っている」を合わせた『認知している』の割合は81.3%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「知っている」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、男性が80.5%、女性が82.1%となっている。

年代別にみると、30歳代以下は「知らない」が、40歳代以上は「知っている」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、最も多いのは60歳代で92.7%、以下、70歳以上が89.2%、50歳代が84.4%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域で「知っている」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で88.3%、以下、土山地域が84.7%、信楽地域が83.1%、水口地域が80.9%、甲南地域が75.9%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満は「知らない」が、「3年～10年未満」は「知っている」「名前だけ知っている」が、「10年以上」は「知っている」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、最も多いのは10年以上で84.0%、以下、3年～10年未満が67.4%、3年未満が41.0%と続いている。



(5) 「生ごみ堆肥循環化システム」への参加状況

「問 11」 あなたは、「生ごみ堆肥循環化システム」に参加されていますか。(○は1つだけ)

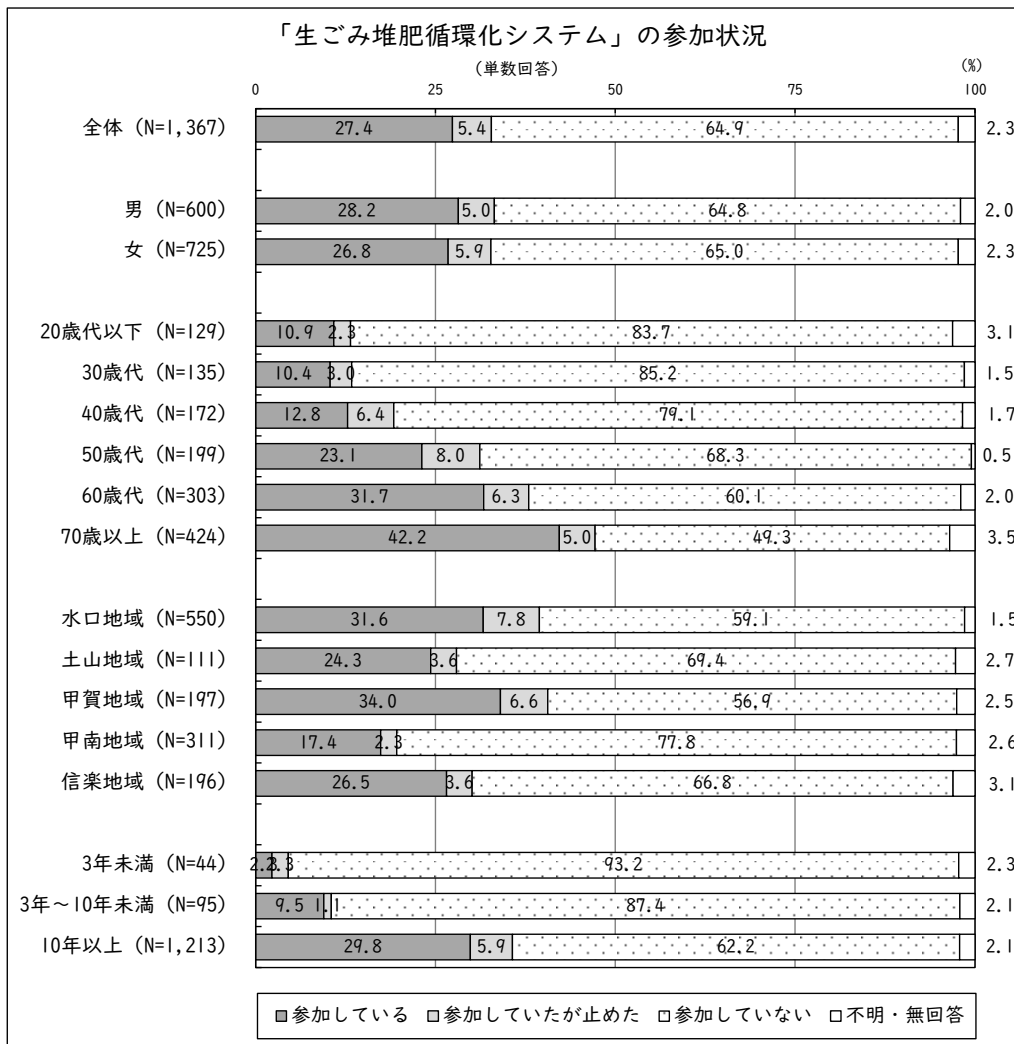
「生ごみ堆肥循環化システム」の参加状況について、「参加していない」が 64.9%で最も多くなっており、以下、「参加している」が 27.4%、「参加していたが止めた」が 5.4%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「参加していない」が最も多くなっている。また、「参加している」の割合は男性が 28.2%、女性が 26.8%となっている。

年代別にみると、すべての年代において「参加していない」が最も多くなっている。また、「参加している」の割合が最も多いのは 70 歳以上で 42.2%、以下、60 歳代が 31.7%、50 歳代が 23.1%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「参加していない」が最も多くなっている。また、「参加している」の割合が最も多いのは甲賀地域で 34.0%、以下、水口地域が 31.6%、信楽地域が 26.5%、土山地域が 24.3%、甲南地域が 17.4%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「参加していない」が最も多くなっている。また、「参加している」の割合が最も多いのは 10 年以上で 29.8%、以下、3 年～10 年未満が 9.5%、3 年未満が 2.3%と続いている。



(6) 「生ごみ堆肥循環化システム」に参加していない理由

「問 12」 問 11で「参加していたが止めた」「参加していない」のいずれかに回答された方におたずねします。あなたが参加されていないのはどのような理由からですか。(○は1つだけ)

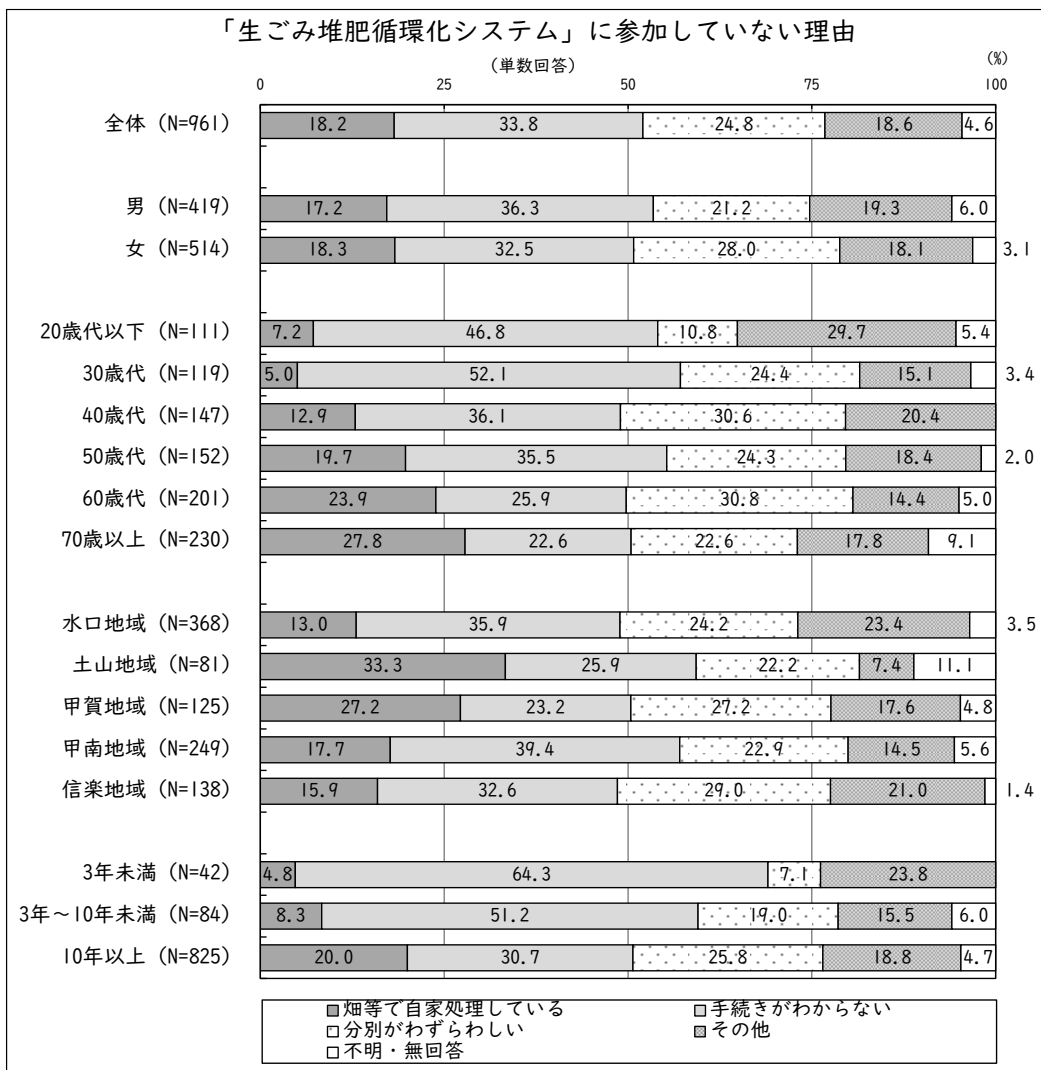
「生ごみ堆肥循環化システム」に参加していない理由は、「手続きがわからない」が 33.8%で最も多くなっており、以下、「分別がわずらわしい」が 24.8%、「畑等で自家処理している」が 18.2%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「手続きがわからない」が最も多くなっている。また、女性は「分別がわずらわしい」が多くなっている。

年代別にみると、50 歳代以下は「手続きがわからない」が、60 歳代は「分別がわずらわしい」が、70 歳以上は「畑等で自家処理している」が最も多くなっている。

居住地域別にみると、水口地域、甲南地域、信楽地域は「手続きがわからない」が、土山地域は「畑等で自家処理している」が、甲賀地域は「畑等で自家処理している」「分別がわずらわしい」が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「手続きがわからない」が最も多くなっている。また、10 年未満では「畑等で自家処理している」「分別がわずらわしい」が少なくなっている。



(7) 「COOL CHOICE(クールチョイス)」の認知状況

「問 13」 あなたは、「COOL CHOICE(クールチョイス)」という取り組みをご存知ですか。
(○は1つだけ)

「COOL CHOICE(クールチョイス)」の認知状況について、「聞いたことがない(今回はじめて知った)」が79.1%で最も多く、なっており、以下、「名前だけ知っている」が11.3%、「詳しく知っている」が5.9%と続いている。「詳しく知っている」と「少し知っている」と「名前だけ知っている」を合わせた『認知している』の割合は17.5%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「聞いたことがない(今回はじめて知った)」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、男性が19.0%、女性が15.5%となっている。

年代別にみると、すべての年代において「聞いたことがない(今回はじめて知った)」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、最も多いのは70歳以上で20.7%、以下、60歳代が17.9%、40歳代が16.8%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「聞いたことがない(今回はじめて知った)」が最も多くなっている。また、『認知している』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で25.4%、以下、土山地域が24.3%、信楽地域が16.3%、水口地域が16.0%、甲南地域が13.5%と続いている。

